

SNW対話イン北九州高専 2017 事後アンケート結果 (平成 29 年 1 月 6 日開催)

纏め：廣 陽二

1. アンケート回答者 生産デザイン工学専攻 12名

(内訳)

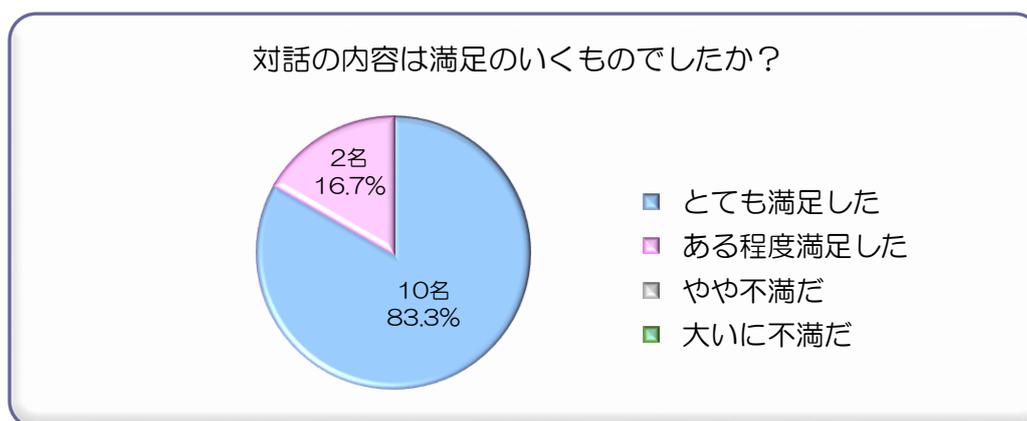
- | | |
|-----|----|
| ・1年 | 7名 |
| ・2年 | 5名 |

2. 対話会について

(1) 対話の内容は満足いくものでしたか？その理由は？

とても満足した	10名 (83.3%)
ある程度満足した	2名 (16.7%)
やや不満だ	0名 (0.0%)
大いに不満だ	0名 (0.0%)

出席者全員が「とても満足した」又は「ある程度満足した」と回答している。



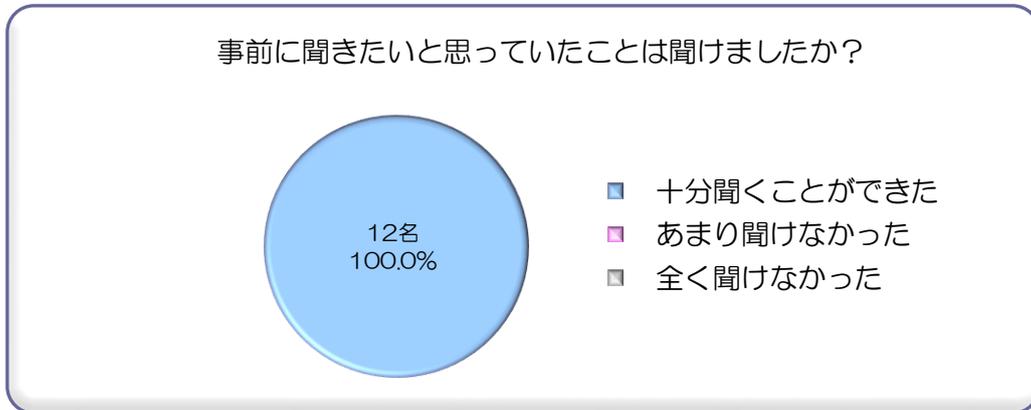
<理由>

- ・ 今まで知らなかったことや、初めて聞く考え方を多く知ることができたから。自分の考えを言うことができ、議論することができたから。
 - ・ 再稼働について、グレーゾーンの意見を持っていたため、知識を持った賛成派の方の話を聞けた。
 - ・ 私の考えが及ばないところまで分かりやすく解説していただけたから。
 - ・ 普段、聞くことができない本当の原発について聞くことができたから。
 - ・ 知りたいと思っていた枯渇性エネルギーに対する知見が得られたので良かった。
 - ・ 詳しい話を聞くことができた。
 - ・ 自分の疑問について納得できる答えを聞いた。
 - ・ エネルギー開発における動向を知れた。
 - ・ 様々な意見が聞けて、有意義な時間が過ごせた。

(2) こと前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

十分聞くことができた 12名 (100.0%)
あまり聞けなかった 0名 (0.0%)
全く聞けなかった 0名 (0.0%)

全員が「十分聞くことができた」と回答している。



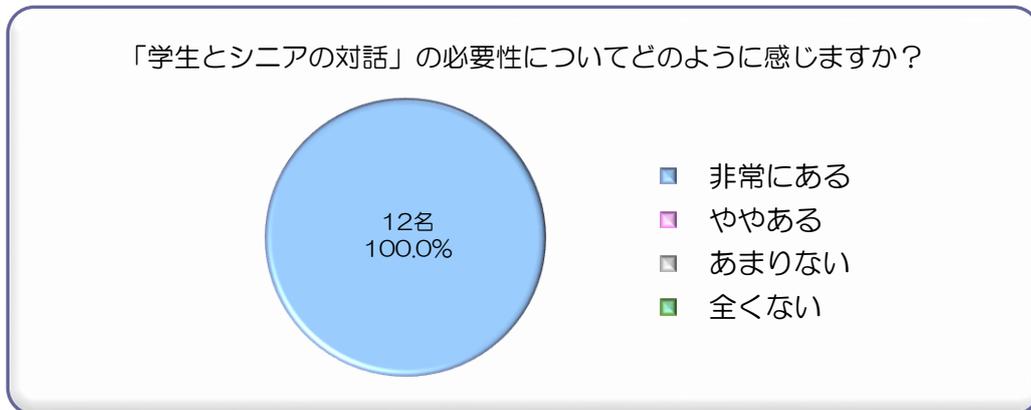
(3) 今回の対話で得られたことは何ですか？

- ・ 自分の考えと異なる考えを多く得られた。
- ・ 再稼働するためのステップ。
- ・ 代替エネルギー（火力、風力、水力、太陽光）の現実的検討。今後、必要な技術を知ることができた。
- ・ 原子力に対する正しい知識、シニアの方々の考え方。
- ・ 原発の安全性、100%安全はない。「出来る限りの安全は100%守る」ことが、すごく伝わってきた。
- ・ 原子力の専門家の方々に優しくご指導頂いた。凄く今後のエネルギー問題の認識が改まった。
- ・ 社会に対して、必要なこともあること。
- ・ マスコミではなく、実際に原発を扱う側からの意見。
- ・ これからのエネルギー問題について、自分の問題として捉えることができた。
- ・ 視野を広くした考え方（歴史面に基いて考える等）。
- ・ 新しい知識と関心。
- ・ 原発の重要性、安全性が知れた。

(4)「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

非常にある	12名 (100.0%)
ややある	0名 (0.0%)
あまりない	0名 (0.0%)
全くない	0名 (0.0%)

全員が「非常にある」と回答している。



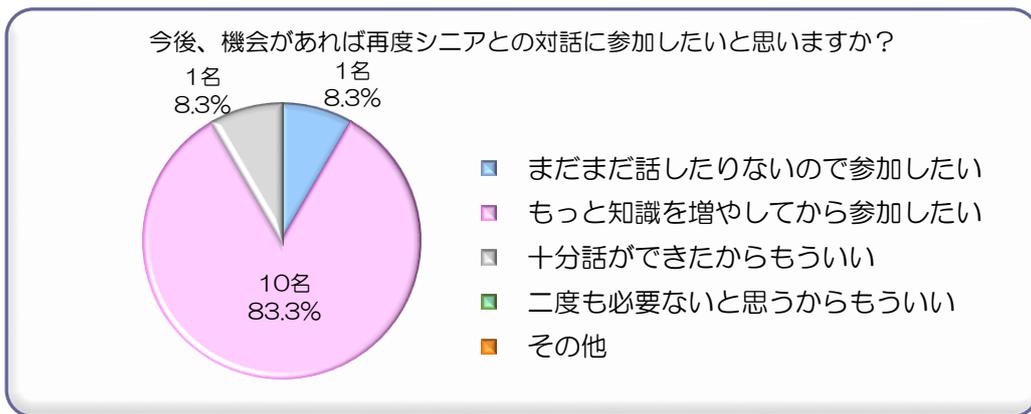
<理由>

- 外部から講師が来ても、普段は授業で終わってしまうが、対話という形式だったので、新しい考えを多く知ることができた。
- 学校の講義であるのは、核分裂等の仕組みだけであるが、今回の対話で実情を知ることができた。
- 自分で調べて考えるだけでは及ばない部分の話を聞けるから。
- 日常生活や学校だけでは分からないような内容を学ぶことができたから。知識が不足している人が多いと思うので、シニアとの対話をもっと増やすべきだと思った。
- 原発やエネルギーに対する知識を高めることができるから。
- 知らないだけで済ませていたら、エネルギーが本当に枯渇してしまった時に、正しい思考や冷静な行動を我々以降の世代が取れないと思うから。
- 若い人にしてもらいたいことを知れた。
- 考え方が違う世代の方と話すのは、非常に大切だと思う。
- これまでの経験が多いので、広い知識を得ることができた。
- 学生の私たちに比べ、もっと広い視野で考えているので、新しい考え方が聞けて、とても面白かった。
- 実務経験者との交流は、非常に興味深かった。
- 自分で分からない部分が知れるため、とても必要だと思う。

(5) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？

まだまだ話したりないので参加したい	1名 (8.3%)
もっと知識を増やしてから参加したい	10名 (83.3%)
十分話ができたらもういい	1名 (8.3%)
二度も必要ないと思うからもういい	0名 (0.0%)
その他	0名 (0.0%)

「もっと知識を増やしてから参加したい」が10名で一番多く、「まだまだ話したりないので参加したい」、「十分話ができたらもういい」が各1名、「二度も必要ないと思うからもういい」、「その他」の回答はなかった。

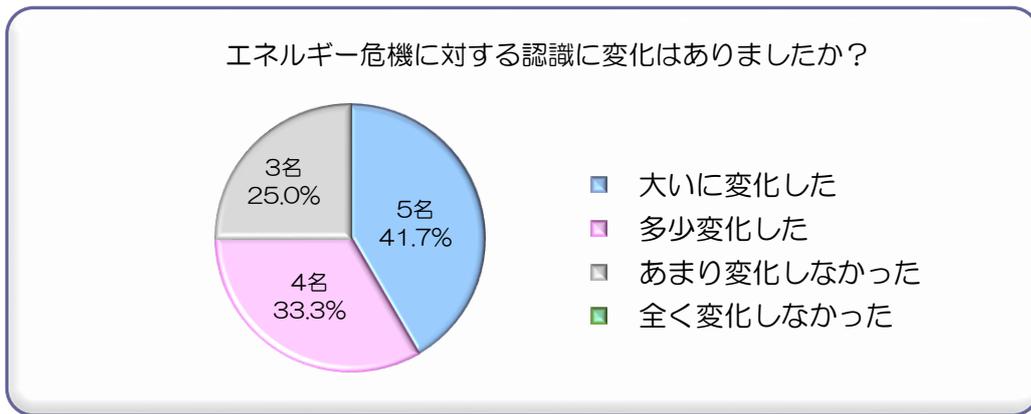


(6) エネルギー危機に対する認識に変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	5名 (41.7%)
多少变化した	4名 (33.3%)
あまり变化しなかった	3名 (25.0%)
全く变化しなかった	0名 (0.0%)

「大いに变化した」の回答が5名、「多少变化した」の回答が4名であった。

「あまり变化しなかった」3名の回答理由は、“再生可能エネルギーへの変換は難しいなと再認識した”、“知っていたことがあったため”、“以前から、エネルギー危機について認識していたから”であり、「全く变化しなかった」の回答はなかった。



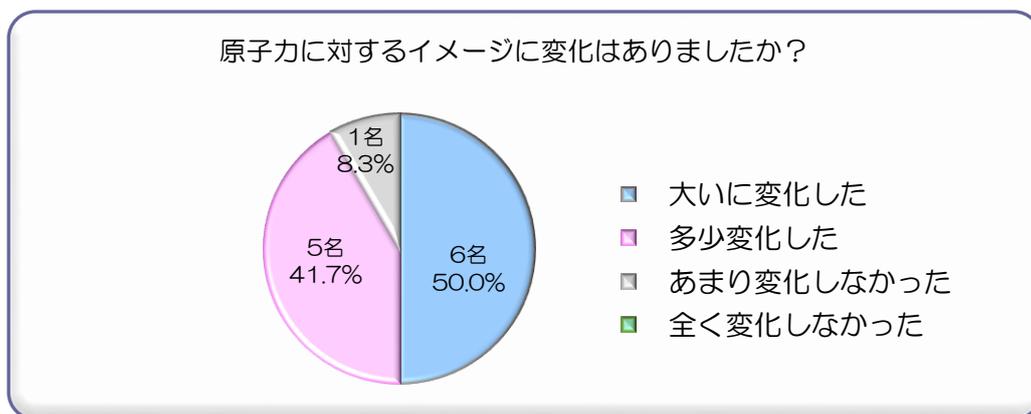
<理由>

- エネルギー危機という大きなくくりではないが、原子力エネルギーの必要性を感じた。
 - ・ 火力発電の資源はあと100年くらいしか持たないため、もう時間がないと分かったから。
 - ・ テーマが少し違ったので、エネルギー危機についてあまり議論を行わなかったが、石油燃料やウランは有限なので心配はしていた。
 - ・ 資源の枯渇は必ずやって来るから。
 - ・ 秒きざみで本当に危機的な問題であることを理解した。
 - ・ エネルギーの実態を知ることができたから。
 - ・ 何となくしか感じてなかったが、数字で知ることができたので。
 - ・ 化石燃料は必ずなくなるという意識を持った。
 - ・ 原子力を使っていないことで、無駄に海外にお金を払っていると分かり、大いに变化した。
- 再生可能エネルギーへの変換は難しいなと再認識した。
 - ・ 知っていたことがあったため。
 - ・ 以前から、エネルギー危機について認識していたから。

(7) 原子力に対するイメージに変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	6名 (50.0%)
多少变化した	5名 (41.7%)
あまり变化しなかった	1名 (8.3%)
全く变化しなかった	0名 (0.0%)

「大いに变化した」が6名、「多少变化した」が5名、「あまり变化しなかった」1名の回答理由は、「こと前に学習していたため、原子力自体に対するイメージは変化しなかった」であった。



<理由>

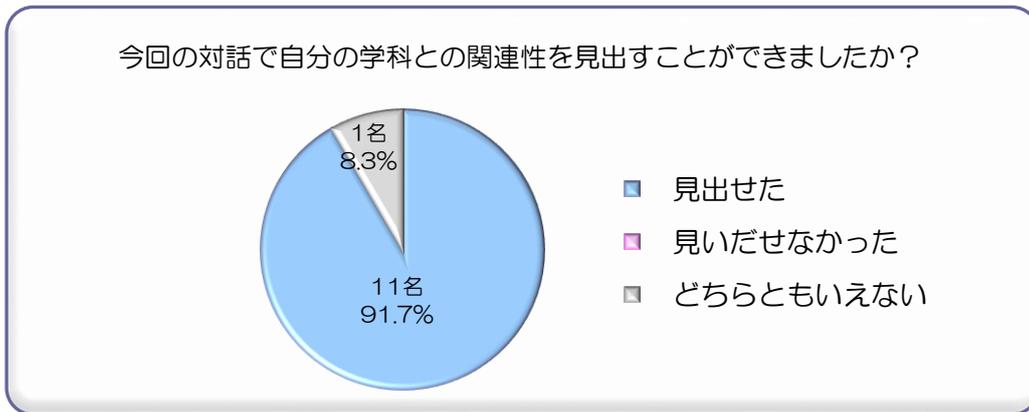
- 原子力発電所の安全対策がとても進んでいて驚いた。
 - ・ 街等にいる反対派の声を聞くことが多いため、悪いことばかりのイメージだったが、対策等を聞くことができ、正しい知識を得られた。
 - ・ 必要以上に恐れるのも理にかなっていないと思うようになったから。
 - ・ マスメディアによる影響で原子力について、一方的な知識しかなかったから。
 - ・ 安全性は高く、三重四重の対策が行われている。
 - ・ 松永さんの『母体に触れたら被ばくする』のくだりもあって、イメージが変わった。
 - ・ より安全な物と感じた。
 - ・ 実際に原発を扱う側からの意見を聞いたので、イメージが変わった。
 - ・ 危険なイメージが先行していたが、メリットを多く知ることができた。
 - ・ 津波等への対策は知っていたが、テロに対する対策は初めて知った。
 - ・ 安全に作られていて、もっと使っていければと思った。
- こと前に学習していたため、原子力自体に対するイメージは変化しなかった。

(8) 今回の対話で自分の学科との関連性を見出すことができましたか？その理由は？

見出せた 11名 (91.7%)
見いだせなかった 0名 (0.0%)
どちらともいえない 1名 (8.3%)

1名を除く全員が「見出せた」と回答している。

「どちらともいえない」1名の回答理由は、“専門よりも原発との関わり方について議論したので、そこまで感じることはなかった”であった。



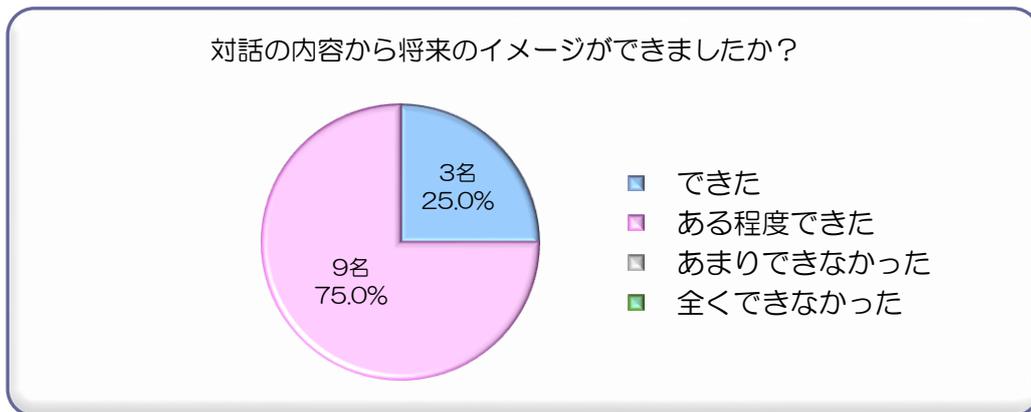
<理由>

- 化学が多く使われていると思った。
 - 様々な角度から対策があり、システムは何にでも必要であるから。
 - 発電の効率化のためのソフトウェア的対策という話があったから。
 - 原子力を制御しているのは情報系で、自分の学科だったから。
 - どのような学問も関連している。
 - 設計等が大きく関わってくると思う。
 - 安全対策等は全ての分野で生かせる考えだと思った。
 - ソフトウェアの面で、もっと効率化ができるのではと考えたから。
 - エネルギー開発は、分野横断的な研究分野であった。工学にとらわれず、効率をソフトで良くすれば、理学のみで研究することもできる。
 - ソフトウェアや送電技術等と結びつけて発電のコストを下げたいと思った。
- 専門よりも原発との関わり方について議論したので、そこまで感じることはなかった。

(9) 対話の内容から将来のイメージができましたか？その理由は？

できた	3名 (25.0%)
ある程度できた	9名 (75.0%)
あまりできなかった	0名 (0.0%)
全くできなかった	0名 (0.0%)

全員が「できた」又は「ある程度できた」と回答しており、「あまりできなかった」、「全くできなかった」の回答はなかった。



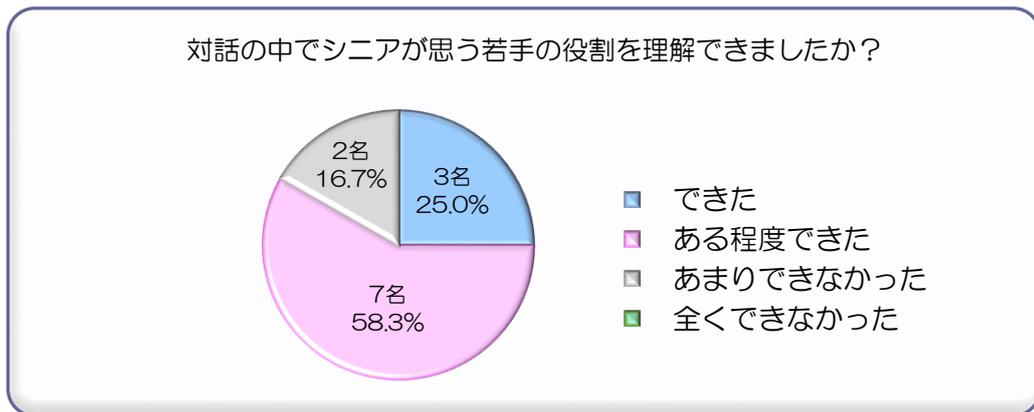
<理由>

- 今後、どういふエネルギー構成になるか少し想像できた。
- ・ 今あるエネルギーのみでなく、新たなエネルギーも出てくるのだろうと思った。
- ・ 今のままでは資源が持たず、将来的に生活レベルを落とすことになるかと分かったから。
- ・ 将来は、原子力発電について知識をしっかりと持ち、行動していきたい。
- ・ 就職に関する話も聞いたので、良い機会だった。
- ・ 自分の考えをしっかりと持つのが大ことだと分かった。
- ・ 資源枯渇等を考えると。原発の必要性は増してくる。
- ・ 大きなエネルギー源の変化がない限り、原子力発電は必要であると考えた。
- ・ 今後のエネルギーについて話して、資源が全て無くなった時を考えると、エネルギー問題に対する開発は、もっと力を入れるべきだと思った。
- ・ 何が必要なのかが、少しながら見えてきた気がする。
- ・ エネルギーは限りあるものなので、どんどん新しいものを開発して行くべきだと思う。

(10) 対話の中でシニアが思う若手の役割を理解できましたか？またその理由は？

できた	3名 (25.0%)
ある程度できた	7名 (58.3%)
あまりできなかった	2名 (16.7%)
全くできなかった	0名 (0.0%)

10名が「できた」又は「ある程度できた」と回答している。「あまりできなかった」2名の回答理由は、「若手としてよりも、技術者としてというところを強く感じた」、「自分の中で考えはまとまるが、なかなか言い出すことができなかった」であり、「全くできなかった」の回答はなかった。



<理由>

- 私たちが新しいエネルギーを作り、今あるエネルギーをさらに良いものにする。
 - これから社会に出て行く若手の意見、また若手にシニアの知識を伝える必要性が分かったから。
 - 自分で考えて、今後の日本を担っていくことだと分かった。
 - すごいシニアの人たちだと思った。若手が育たないと、その次も育たない。もっと知識を教えてほしい。
 - 伝えられた。
 - これからのエネルギー問題を解決していくのは若手であると感じた。
 - シニアの方が対話の中で話されていたので。
 - 自分の考えを言えた。
- 若手としてよりも、技術者としてというところを強く感じた。
 - 自分の中で考えはまとまるが、なかなか言い出すことができなかった。

(11)自分が思っていた若手の役割とシニアの考えは違いましたか？どのような違いがありましたか？また、シニアの考えを聞くことで、自分の考えに変化はありましたか？出来るだけ詳しくお答えください。

<理由>

- ・ 若手に期待されていることを再実感した。
 - ・ シニアが若手に教えるばかりだと思っていた。教えてもらったのは勿論、学生の話もしっかり聞いてもらった。
 - ・ 技術者としてしっかりと考えを聞くことができた。
 - ・ 年齢のギャップはあったが、エネルギーを良くするという目指す目標は同じであった。
 - ・ 若い人が次の世界を作っていく必要性。
 - ・ 今まで講義などを聞いていて、これからは自分達が頑張らなければいけないと考えていた点では同じだった。
 - ・ ほぼ同じだった。原子力発電に否定的でも肯定的でもなかったが、肯定的になった。
 - ・ 自分が思っていた役割りとあまり変わらなかったなので、その役割りを果たしたいと思う。

- ・ 歴史面から現状について考える力があまり私にはなかった。
 - ・ 自分の専門知識の少なさから、シニアとの思想の違いは見出せなかった。

(12) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

<理由>

- ・ 私たち学生にできることは、知識を増やして、正しい知識を広めて行くことだと思う。これから少しずつではあるが、こういった話を聞く機会を増やして行こうと思う。
- ・ 火力以外の代替エネルギーで発電を補うのは難しいと分かった。今後の資源不足に向け、実現すべき技術を学ぶことができて良かった。
- ・ シニアの方々が理解しやすいように具体的な資料やこと案を交えて、説明や問題提起してくれて非常に有意義だった。
- ・ 技術力を上げるのは前提であるが、もう一つ、人を納得させることは、原発だけでなく他の技術を扱う上でも非常に大切だと思った。
- ・ 今回は新しいことも知れたので、いい機会となった。
- ・ とても楽しい対話会だった。ありがとうございました。
- ・ 原子力発電について知る、とてもいい機会になった。